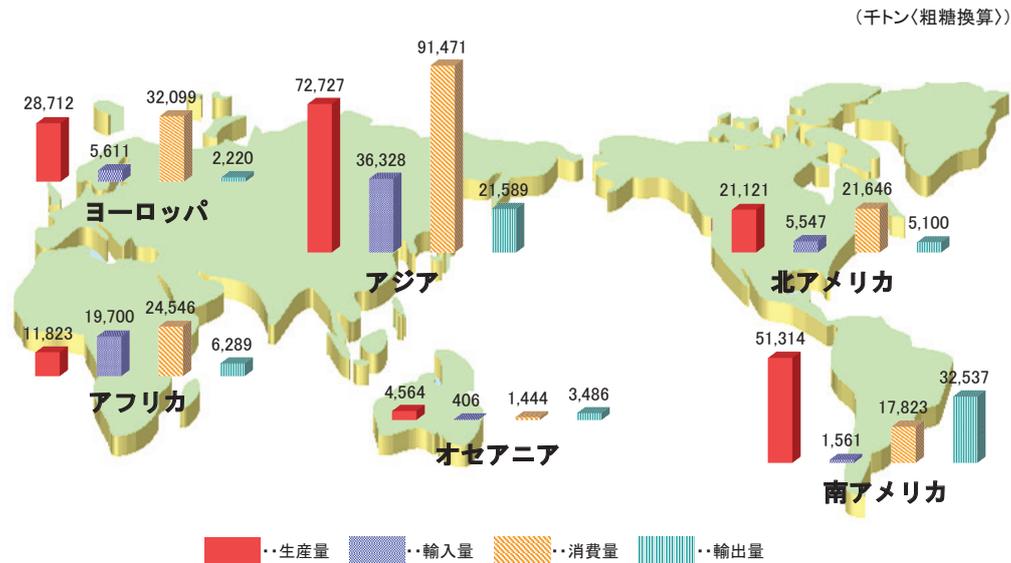


砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之、高田 勇一

1. 世界の砂糖需給（2023年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2023」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2023年6月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2022/23砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、前回予想より212万トン下方修正されたものの、1億9026万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、前年度比2.0%増）とわずかに増加すると見込まれる（表1）。主産地であるブラジルやタイの増産見込みから世界全体では前年度を上回るものの、生産量第2位のインドをはじめ、EUや中国、パキスタンなどでは前年度を下回る見通しである。

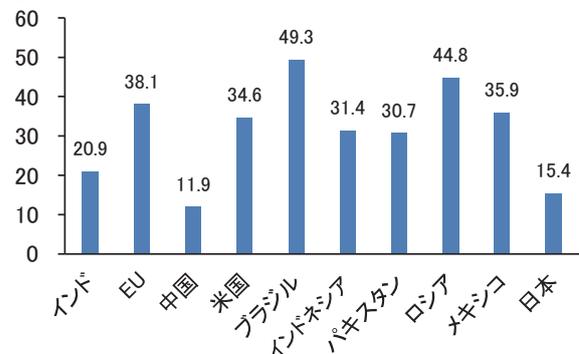
また砂糖消費量は、主要消費国であるインドを筆頭に、中国や米国、インドネシアなどで増加が見込まれるものの、ブラジルやEU、メキシコでは減少が見込まれ、全体としては1億8903万トン（同

0.9%増）とわずかな増加が見込まれる。

この結果、期末在庫率は6年ぶりとなる40%割れが見込まれる。地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

（参考）一人当たり砂糖消費量（2022/23年度）

(kg/人・年)



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2023」
 注1：年度は各国の砂糖年度。
 注2：EUには、英国を含む。
 注3：図2の消費量上位9カ国および日本を表示。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	66,233	180,846	68,134	81,135	44.9
2018/19	81,135	186,654	61,365	182,866	61,426	84,863	46.4
2019/20	84,863	181,550	69,210	182,097	71,634	81,892	45.0
2020/21	81,892	181,745	66,854	184,618	68,178	77,694	42.1
2021/22	77,694	186,621	69,184	187,383	70,833	75,283	40.2
2022/23 (2023年6月予測)	75,283	190,261	69,153	189,029	71,220	74,447	39.4

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

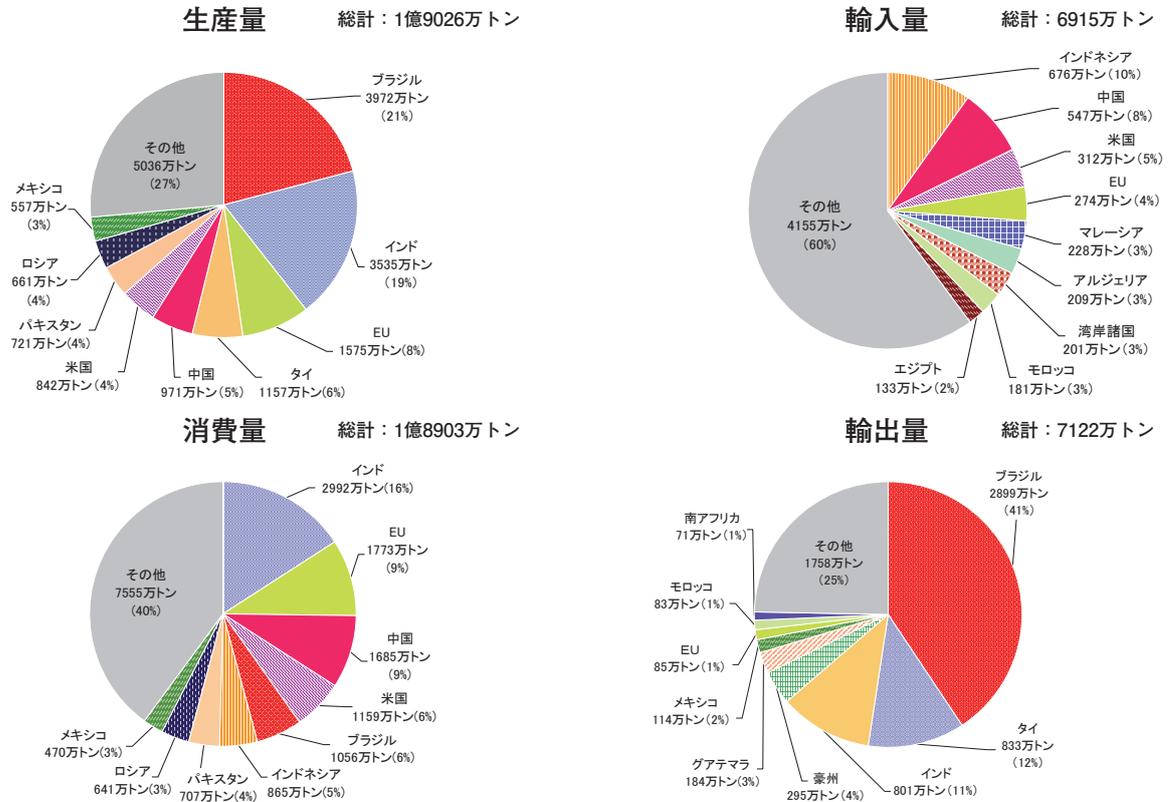
注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2023年6月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2022/23年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2023」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：各数量においては、その主要国とその他を表示。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

ブラジルは、サトウキビ主産地の中南部で天候に恵まれたことから、3972万トン（前年度比5.6%増）とやや増加し、過去2番目の豊作が見込まれる（図2）。

インドは、天候不順によるサトウキビの減産や、サトウキビのエタノール仕向けの増加などから、3535万トン（同8.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

EUは、夏季の記録的な熱波や干ばつがてん菜の生育に影響したことや、欧州司法裁判所がネオニコチノイド系農薬の緊急使用に否認判決を下したことなどにより、1575万トン（同8.9%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

【輸入量】

インドネシアは、砂糖生産量が前年度をわずかに下回ると見込まれる中で、主に家庭消費の増加に伴い676万トン（前年度比15.9%増）とかなり大きく増加し、中国を抜いて第1位になると見込まれる。

中国では、これまで国内生産の不足分を上回る量が輸入されてきたが、近年の国内の累積在庫の増加などによる輸入減退や、世界的な砂糖価格の上昇を背景とした在庫の取り崩しなどから、547万トン（同21.4%減）と大幅に減少し、第2位に後退すると見込まれる。

【消費量】

第1位のインドは、人口の増加に伴い、2992万トン（前年度比1.8%増）とわずかに増加し、世界の砂糖消費量の16%を占めると見込まれる。

続くEUは、1773万トン（同0.7%減）とわずかに減少が見込まれ、長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国は、1685万トン（同2.0%増）とわずかに増加するものの、EUの消費量をやや下回ると見込まれる。

【輸出量】

第1位のブラジルは、主要輸出国が輸出量を大きく減らす中で、2899万トン（前年度比7.0%増）とかなりの程度増加し、世界の砂糖輸出の4割を占めると見込まれる。

続くタイは、833万トン（同3.0%増）と前回予測から若干下方修正されたものの、インドの輸出量が減少見通しであることから、世界第2位を維持すると見込まれる。

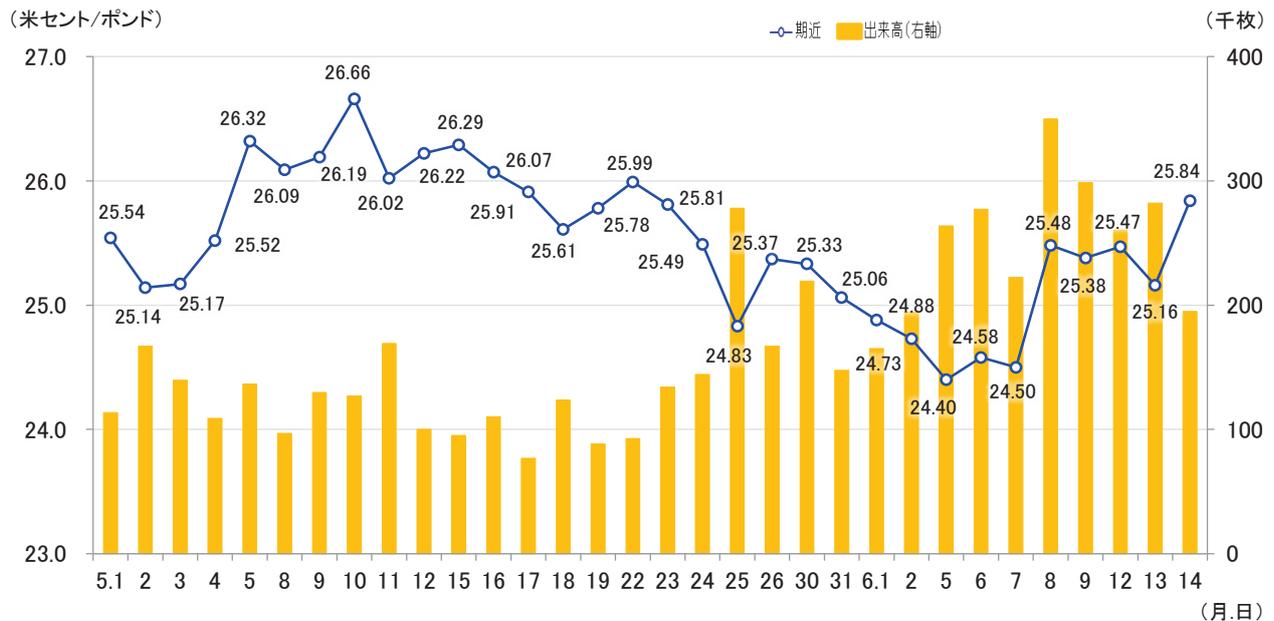
第3位のインドは、国内需要への対応から今年度の輸出枠拡大の可能性が低いとされ、前年度の輸出枠である1120万トンを大きく下回る801万トン（同35.7%減）と大幅な減少が予想される。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (5/1 ~ 6/14)

～ブラジルの増産から24セント台に下落も、天候不順の懸念から26セントをうかがう展開～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：期近7月限の値。

2023年5月のニューヨーク粗糖先物相場（7月限）の推移を見ると、1日は、5月限の流れを引きずり、1ポンド当たり25.54セントをつけた（注1）。2日は、ブラジル国家食糧供給公社が22/23年度の同国砂糖生産量を過去2番目の豊作見込み（前年度比4.7%増）と報告したことから、同25.14セントと値を落とした。3日以降は、リアル高（注2）や国際砂糖機関（ISO）が22/23年度の余剰在庫量を下方修正したことなどから上昇し、5日は、同26.32セントと高値をつけたものの、8日は、ドル高により、同26.09セントと値を下げた。9日以降は、原油高（注3）やドル安などにより上昇し、10日は、同26.66セントと高値をつけた。11日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が同国のサトウキビの順調な収穫を受けて、4月までの砂糖生産量を前年同期比43.7%増と報告したことから、同

26.02セントと下落した。12日は、米国海洋大気局（NOAA）が8～10月期のエルニーニョ現象の発生可能性を75%から94%に引き上げたことから、主産地での天候不順が懸念され、同26.22セントと値を上げた。15日は、リアル高により、同26.29セントと上昇した。16日は、米国農務省（USDA）が学校給食で砂糖の使用を制限することを発表したことが砂糖需要の弱気材料となり、同26.07セントと値を下げた。17日以降は、ドル高やブラジルでの乾燥気候がサトウキビ収穫を早めるとの懸念から続落し、18日は、同25.61セントを付けた。19日は、ドル安を背景としたショートポジションをカバーするための買い戻し（注4）が入ったことなどから、同25.78セントと上昇した。22日は、ISOが22/23年度の砂糖生産量と余剰在庫量を下方修正したことから、同25.99セントとさらに値を上げた。23日

以降は、UNICAがブラジルのサトウキビ収穫が好調との報告を行ったことなどから値を下げ、25日は、同24.83セントと1カ月ぶりに同25セントを下回った。26日は、USDAが23/24年度の世界の期末在庫量を5年ぶりの低水準になると予測したことから反転し、同25.37セントと上昇した。30日以降は、原油安やレアル安により下落し、31日は、同25.06セントを付けた。

6月に入ると、1日以降は、ブラジルでの増産やインドでのモンスーンによる降雨期待などを背景に値を下げ、5日は、同24.40セントをつけた。6日は、レアル高により、同24.58セントと値を上げたものの、ブラジルの収穫が順調であることが弱気材料となり、7日は、同24.50セントと再び値を下げた。8日は、NOAAがエルニーニョ現象の発生を公表したことから、同25.48セントと1セント近く急騰し、9日は、ドル高により値を下げたものの、12日は、天候不順への懸念から再び値を上げ、同25.47セントをつけた。13日は、UNICAがブラジルの5月期までの砂糖生産量が前年同期比33.7%

増と報告したことから、同25.16セントと下落したが、14日は、レアル高を背景に、同25.84セントと5月中旬の水準にまで上昇した。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注4) 売買差益を狙い、将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っていた金融資産を、決済のために買い戻すこと。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2023年6月時点予測)

ブラジル

2023/24年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：852万ha (前年度比0.1%増)
生産量：6億5800万トン (同8.5%増)

【砂糖 (甘しゃ糖)】

生産量：4420万トン (同11.3%増)
輸出量：3365万トン (同16.1%増)

2023/24年度の輸出量は、国際需要の高まりから大幅な増加を見込む

2023/24年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、大豆やトウモロコシなどの競合作物の影響を受ける一方、世界的な砂糖価格の高騰や供給不足の懸念により増産意欲が高まったことで、852万ヘクタール (前年度比0.1%増) と引き続き横ば

いで推移すると見込まれる (表2)。サトウキビ生産量は、主産地の中南部地域で好天に恵まれ収穫に良好な条件が続いたことなどから、6億5800万トン (同8.5%増) とかなりの程度増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの増産や砂糖価格の上昇などを背景に、4420万トン (同11.3%増) と

かなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、エルニーニョ現象による世界的な天候不順への懸念やインドの輸出枠拡大を期待薄とする報道などを背景

に、国際市場での輸入需要の高まりが期待されることから、3365万トン（同16.1%増）と大幅に増加すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (5月予測)	2023/24 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,508	8,517	8,517	0.1%	
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,676	651,500	658,000	8.5%	
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,720	43,380	44,200	11.3%
	輸入量	6	4	2	3	3	48.8%
	消費量	10,916	10,718	10,557	10,715	10,715	1.5%
	輸出量	34,042	27,088	28,985	32,824	33,647	16.1%
	期末在庫量	3,468	3,286	3,466	3,133	3,307	▲4.6%
	期末在庫率	7.7	8.7	8.8	7.2	7.5	1.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2023」

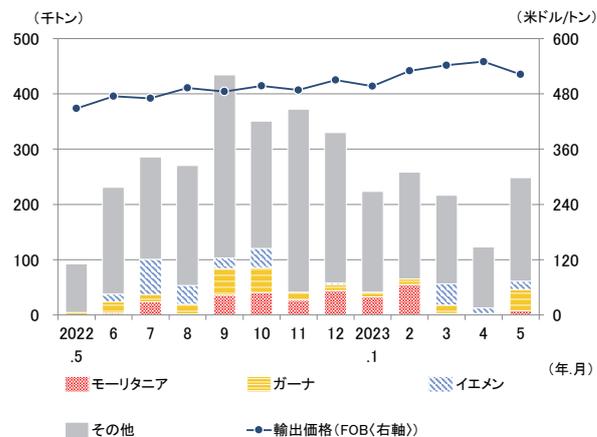
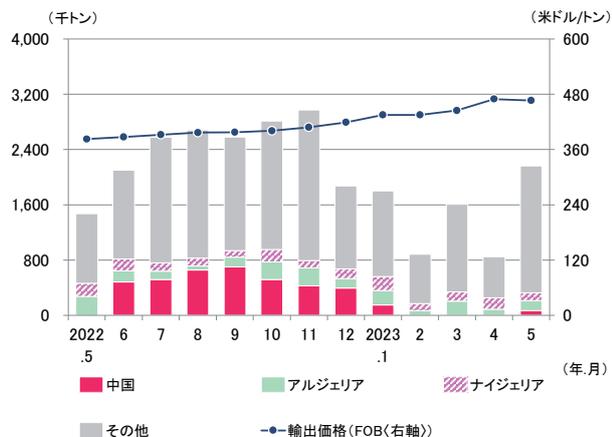
注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移

粗糖

精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

インド

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：557万ha（前年度比5.4%増）
生産量：4億6041万トン（同2.4%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3535万トン（同8.3%減）
輸出量：801万トン（同35.7%減）

2022/23年度輸出量は、減産と国内需要確保により大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、主産地であるウツタル・プラデーシュ州やタミルナードゥ州での作付面積の拡大などから、557万ヘクタール（前年度比5.4%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。サトウキビ生産量は、ウツタル・プラデーシュ州やカルナータカ州で増産が見込まれるものの、マハラシュトラ州での天候不順による減産が影響し、4億6041万トン（同2.4%減）とわずかに減少すると見込まれる。

また、砂糖生産量も、サトウキビの減産に加え、天候不順による早期出穂^{しゅつすい}によりCCS^{（注1）}が低下し

たことなどから、3535万トン（同8.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量も、減産見込みや国内需要の確保、エタノールへの仕向け増のほか、輸出枠の前年比減^{（注2）}などから、801万トン（同35.7%減）と大幅な減少が予想される。現地報道によると、同国政府は昨年11月上旬に22/23年度の砂糖輸出枠を600万トンと発表しており、その後も輸出枠拡大の可能性は低いとしている。

（注1）可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

（注2）21/22年度は輸出上限として、過去最高となる1120万トンが設定された。

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

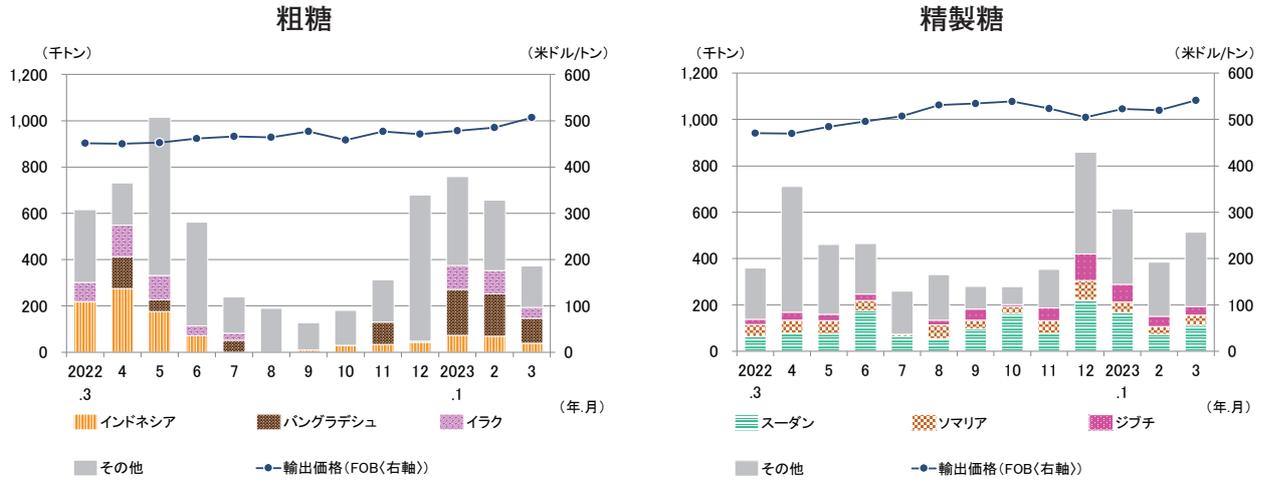
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (5月予測)	2022/23 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,534	4,849	5,280	5,565	5,565	5.4%	
サトウキビ生産量	371,430	410,545	471,878	460,411	460,411	▲2.4%	
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,559	35,345	35,345	▲8.3%
	輸入量	1,686	1,037	428	655	1,087	2.5倍
	消費量	27,324	28,679	29,376	29,916	29,916	1.8%
	輸出量	8,254	8,538	12,468	7,634	8,013	▲35.7%
	期末在庫量	10,510	7,971	5,113	3,564	3,617	▲29.3%
期末在庫率	29.5	21.4	12.2	9.5	9.5	2.7ポイント減	

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

中国

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比3.9%増）
 生産量：6257万トン（同13.3%減）

【てん菜】

収穫面積：20万ha（同38.2%増）
 生産量：875万トン（同23.8%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】

生産量：971万トン（同6.0%減）
 輸入量：547万トン（同21.4%減）

2022/23年度の砂糖生産量はかなりの程度、
 輸入量は大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、116万ヘクタール（前年度比3.9%増）とやや増加が見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、主産地の広西チワン族自治区で昨年7月から11月の間で続いた干ばつの影響や病虫害の発生により、6257万トン（同13.3%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。中国気象局によると、広西チワン族自治区では2月に再び干ばつに見舞われたとの報告もあり、春植えの生育への影響が懸念されている。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、20万ヘクタール（同38.2%増）と大幅な増加が見込まれる。てん菜生産量は、順調な生育が予測されており、875万トン（同23.8%増）と大幅に増加

すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの減産予測から、971万トン（同6.0%減）とかなりの程度減少し、1000万トンを下回ると見込まれる。輸入量は、これまで国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増しされてきたことから減少見通しが続いている。22/23年度も、国内の砂糖生産が減少予測となっているものの、近時の世界的な砂糖価格の上昇などを背景に、在庫の取り崩しなどが見込まれることから、547万トン（同21.4%減）と前月予測から大幅に減少すると見込まれる。

エルニーニョによる干ばつ発生を懸念

6月15日付けの現地報道によると、今期のエルニーニョ現象の発生により、サトウキビ主産地であ

る広西チワン自治区と雲南省での干ばつ発生の可能性が指摘されている。

広西チワン族自治区では、過去13回のエルニーニョ現象のうち10回で降水量が過去平均を下回り、そのうち影響が特に顕著に現れた2014年から16年の間、同自治区の年間降水量は平年の約1500ミリメートルを大きく下回る約1100ミリメートルとなり、2年連続で干ばつが発生した。

また雲南省では、過去13回のうち9回で降水量が過去平均を下回り、近年発生したエルニーニョ現象が同省の収量減につながっていると分析されている。先述と同じ時期（14年から16年）における同

省の降水量は、過去平均の8割にとどまり、14/15年度の収量は前年度比7.4%の減少となった。

今年のエルニーニョ現象は、年後半に本格化すると予測されており、すでにインドやタイをはじめ、広西チワン族自治区や雲南省でも干ばつが発生し、降水量も近年で最も少ない水準となっている。今後、この傾向が続けば、これら地域の降水量は大幅に減少することが見込まれ、サトウキビの生育に深刻な影響が生じることが懸念される。また歴史的に見て、エルニーニョ現象は数年に渡り続くことから、来年以降も干ばつが継続する可能性があり、北半球の砂糖生産の減少が長期化する可能性も指摘されている。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

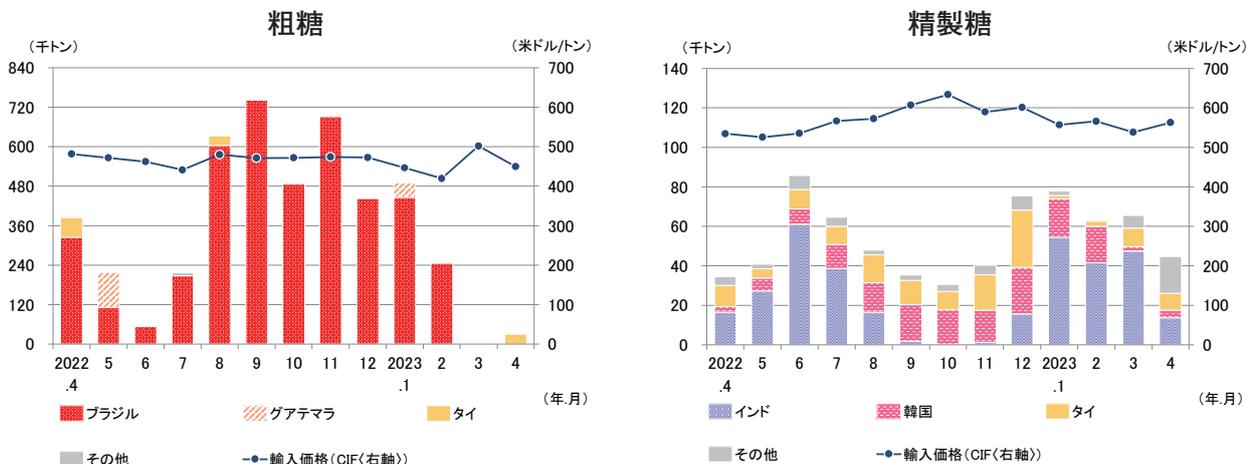
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (5月予測)	2022/23 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,176	1,157	1,119	1,128	1,163	3.9%	
サトウキビ生産量	73,715	72,441	72,136	64,244	62,572	▲ 13.3%	
てん菜収穫面積	213	231	144	155	199	38.2%	
てん菜生産量	10,900	12,330	7,070	8,586	8,753	23.8%	
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	9,731	9,709	▲ 6.0%
	輸入量	6,657	8,198	6,961	6,243	5,473	▲ 21.4%
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,848	16,848	2.0%
	輸出量	192	134	172	183	187	8.6%
	期末在庫量	12,860	15,714	16,312	15,266	14,459	▲ 11.4%
	期末在庫率	77.9	93.1	97.7	89.6	84.9	12.8ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比3.8%減）

生産量：9960万トン（同10.6%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1575万トン（同8.9%減）

輸出量：85万トン（同35.0%減）

2022/23年度の輸出量は減産を背景に大幅に減少し、90万トン割れの見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、ウクライナ情勢の影響などにより、世界的な規模での食糧不足や価格高騰の懸念が広がる中、収益性が高く価格が高騰しているトウモロコシなどの穀物への転作が進んだことなどから、140万ヘクタール（前年度比3.8%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、昨夏の記録的な熱波や干ばつの影響のほか、肥料価格の高騰による施肥の減少やEU域内でのネオニコチノイド系農薬の緊急的使用の禁止などから収量が平年を下回ると予測され、9960万トン（同10.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、てん菜の減産のほか、干ばつなどの影響を受けたてん菜が12月中旬の急激な冷え込みと霜により含糖量が一層低下したことなどから、1575万トン（同8.9%減）とかなりの程度減少すると予想される。輸入量は、不足分を補うため、ウクライナやブラジルからの輸入が増加し、274万トン（同28.4%増）と大幅な増加が見込まれる。一方、輸出量は、砂糖の減産などを背景に、85万トン（同35.0%減）と大幅に減少し、90万トンを割ると見込まれる。

EUの砂糖業界、加盟国に対し、豪州への市場開放の拒否を要請

欧州砂糖製造者協会（CEFS）と欧州てん菜生産者連盟（CIBE）は6月8日、豪州に対するEU砂糖市場の開放拒否を主旨とした、EU加盟国への要請

文を公開し、豪州とのFTA交渉についてけん制した。

（1）EU砂糖業界の強靱性

2017年の生産割当の終了以来、砂糖は長期にわたり低価格が続き、地方では工場閉鎖による数千人の雇用が失われ、生産コストも継続的かつ前例のない上昇が続いている。このような厳しい環境の中、EUの砂糖業界は域内需要を十分に満たす生産量を確保している。

（2）ウクライナ産砂糖の輸入増加

ロシアのウクライナ侵攻以来、EUの砂糖業界はウクライナを支援し、同国産の砂糖輸入は、2022年6月から23年4月の10カ月間で、年間輸入枠の13倍以上の実績があった。この輸入増はEUの砂糖業界にとって大きな負担であり、豪州との交渉で考慮される内容である。

（3）EU市場の開放によるEU砂糖業界への圧迫

EUの貿易政策は、EUの砂糖生産が食料安全保障に貢献していることを反映しておらず、過去10年間、FTA交渉での譲歩の結果、EU市場における第三国産砂糖の参入可能性は大幅に増加した。豪州への追加的な市場開放は、脱炭素化やFarm to Fork戦略の実施といった長期的な課題に適応しようとする中で、EUの砂糖業界にさらなる圧迫を与えかねない。

（4）Brexitと英豪FTAの影響

英国がEUから離脱したことで英国への輸出が減少し、EU産砂糖の域内流通量が拡大した。一方で、英国離脱後もWTO輸入枠が持続されたことで、豪州産砂糖の域内流通の可能性は大きく拡大した。また、英豪FTAによる、豪州産砂糖のEU市場への間

接的な輸入の発生が懸念されている。

(5) 持続可能性と不公平な競争

EUの砂糖業界は、EUが食品や農産物の健康・環境基準を重視することを支持し、持続可能性に係る理念はFTA交渉でも尊重されるべきとしている。

しかし、基準を満たさない第三国に市場開放することは、EU産の砂糖が不公平な競争にさらされることとなる。豪州は基準を満たさない状況にあり、整合性を確保すべきである。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (5月予測)	2022/23 (6月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,517	1,474	1,454	1,396	1,398	▲ 3.8%
てん菜生産量	110,105	98,520	111,395	99,141	99,597	▲ 10.6%
砂糖	生産量	16,971	15,123	17,283	15,709	▲ 8.9%
	輸入量	2,230	1,888	2,132	2,669	28.4%
	消費量	17,014	16,766	17,860	17,680	▲ 0.7%
	輸出量	1,436	1,262	1,312	973	▲ 35.0%
	期末在庫量	2,348	1,332	1,575	1,372	▲ 6.6%
	期末在庫率	12.7	7.4	8.2	7.4	7.9

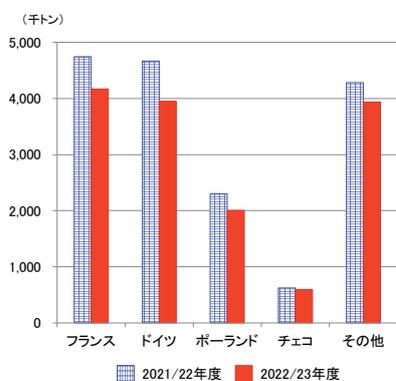
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

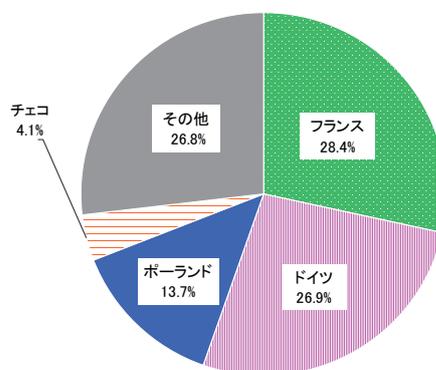
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2022/23年度) (2023年4月時点)

砂糖生産量



国別生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算

注2：2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度は予測値。

資料：欧州委員会

5. 日本の主要輸入先の動向（2023年6月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国が大勢を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比1.7%増）

生産量：3145万トン（同3.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：441万トン（同4.3%増）

輸出量：340万トン（同15.6%増）

2023/24年度の輸出量は、砂糖の増産を背景にかなり大きく増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比1.7%増）とわずかな増加が見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、クイーンズランド州南部などで乾燥した気候が続いたことで、3145万トン（同3.5%減）と、前年度からはやや減少が予想される。

砂糖生産量は、441万トン（同4.3%増）とやや増加すると予想される。輸出量は、世界的な経済回復により同国の主要輸出先である韓国、インドネシアおよび日本などの砂糖消費需要によってけん引されることに加え、世界的な砂糖の供給懸念による豪州産砂糖の需要の高まりから、340万トン（同15.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (5月予測)	2023/24 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	354	342	342	348	348	1.7%	
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,589	31,446	31,446	▲ 3.5%	
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,222	4,405	4,405	4.3%
	輸入量	10	9	16	14	14	▲ 12.5%
	消費量	1,010	1,010	1,009	1,010	1,010	0.1%
	輸出量	3,377	3,513	2,945	3,404	3,404	15.6%
	期末在庫量	789	383	668	541	673	0.8%
	期末在庫率	18.0	8.5	16.9	12.3	15.2	1.6ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：162万ha（前年度比6.0%増）

生産量：9388万トン（同3.0%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1157万トン（同7.6%増）

輸出量：833万トン（同3.0%増）

2022/23年度の砂糖生産量は前年度比増、輸出量も800万トン前半と前年度を上回る見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、競合するキャッサバの生産に転換した農家の一部回帰などから、162万ヘクタール（前年度比6.0%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表7）。23/24年度は、エルニーニョなどによる乾燥気候を考慮し、より乾燥に強いキャッサバに転換する農家が増加しているとされる。サトウキビ生産量は、昨年の雨期の長雨により東北地域の低地帯で洪水が発生したものの、被害に見舞われなかった他の地域で収量が増加し、9388万トン（同3.0%増）と依然として高水準となると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの生産量の増加に伴い1157万トン（同7.6%増）とかなりの程度増加し、21/22年度に引き続き1000万トン超えが見込まれる。輸出量は、砂糖の増産を背景に、833万トン（同3.0%増）と、前回予測から下方修正されたものの、依然として倍増した前年度を上回ると見込まれる。

タイ政府、エタノール由来のバイオプラスチック製造を推進

タイ政府報道官は6月13日、環境負荷軽減の促進に向け、バイオプラスチック製造にエタノールの使用を承認したと発表した。この決定は、バイオプラスチックの原料であるバイオエチレンについての税制優遇措置や、バイオプラスチック産業におけるエタノールの利用を促進するためのガイドラインの設定などにより、業界を支援するものである。

同国産のエタノールは、法律で用途が燃料と酒類

に限定され、主にガソリンとの混合燃料にその多くが使用されてきた。しかし、電気自動車の普及による混合燃料の消費減少が見込まれる中で、同国が推進する地球環境保護目標や政府のBCG経済モデル^(注)に合致する提案として、エタノール他産業での活用が具体化したものである。

従来のプラスチックは、石油化学由来のエチレンを原料としており、その製造過程で大量のCO₂を発生させるが、バイオエタノールを原料とすることで、CO₂の大幅な削減が可能であるとし、また、生分解性材料の創出を促進するものとしても期待されている。

同政府報道官によると、現在同国のエタノール生産能力は年間31億2300万リットルである一方、その需要は15億8300万リットルであるとし、同国のエタノール生産能力は十分にあり、BCG経済モデルを通じたバイオプラスチック製造の拡大は、エタノール産業の持続可能な発展を促進するものとしている。

(注) BCG経済モデルとは、同国の経済施策の一つで、「バイオ（Bio）経済」「循環（Circular）経済」および「グリーン（Green）経済」の概念を統合したものの。生物資源の活用、資源の再利用とリサイクル、社会経済と環境のバランスによる持続可能な開発などを主眼とし、次の4産業が注力分野として掲げられている。（1）農業・食品（2）医療・健康（3）エネルギー、素材およびバイオ化学（4）観光・クリエイティブ経済

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

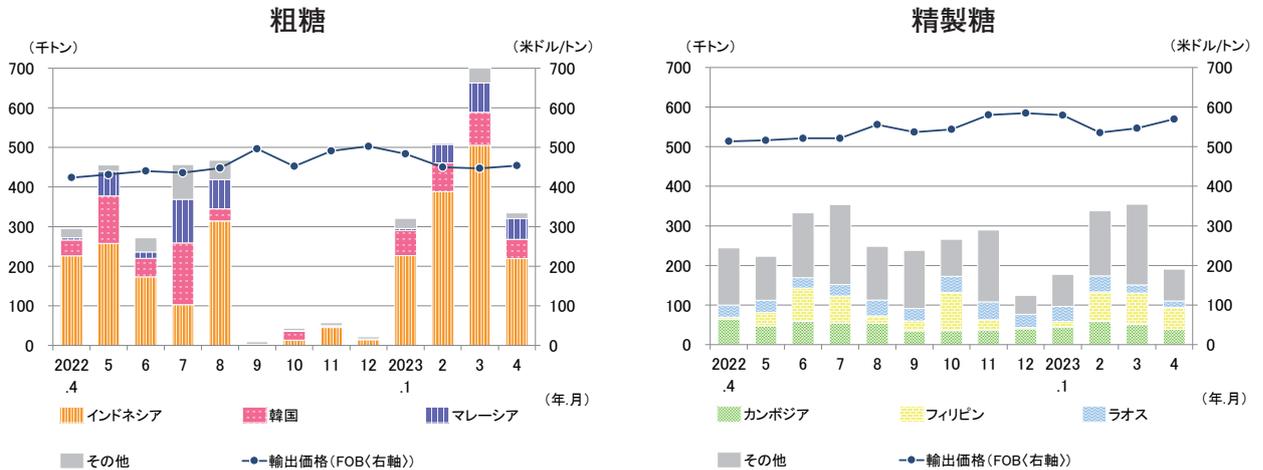
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (5月予測)	2022/23 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,714	1,485	1,525	1,617	1,617	6.0%	
サトウキビ生産量	74,893	66,659	91,145	93,884	93,884	3.0%	
砂糖	生産量	8,801	7,981	10,749	11,591	11,569	7.6%
	輸入量	66	111	149	100	100	▲ 33.1%
	消費量	3,773	3,592	3,424	3,348	3,348	▲ 2.2%
	輸出量	8,461	3,981	8,085	8,339	8,329	3.0%
	期末在庫量	4,532	5,051	4,442	4,461	4,434	▲ 0.2%
	期末在庫率	37.0	66.7	38.6	38.2	38.0	0.6ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。